

# 質疑及び一般質問

令和6年2月22日、27日、28日に開催された質疑及び一般質問では、次の議員が質問を行いました。各議員の質問の中から1問をピックアップし、その要旨を掲載します。

**CHECK!** 白熱議論を映像でご覧ください!  
下の各議員の横にある二次元コードから、掲載の質疑及び一般質問の映像を見ることができます

2月22日(木)



**須藤 和臣** 自由民主党 (館林市)



### ▶東洋大学板倉キャンパスの移転に伴う交渉状況について

Q どのような形で東洋大学側と折り合いをつけるのか伺いたい。

#### A 地域創生部長

板倉キャンパスは、建物、土地ともに東洋大学の所有であるため、利活用のキャスティングボード（決定権）は大学にある。交渉に当たっては、地域が望む利活用が図られるよう、大学側に強く求めているところである。また、大学が取得以来、活用されていない未利用地の返還について、無償譲渡するよう強く申し入れを行っているところである。

2月27日(火)



**神田 和生** 自由民主党 (藤岡市・多野郡)



### ▶イチゴの生産拡大について

Q 令和6年度から群馬県ではイチゴの生産拡大に取り組むとのことだが、具体的な内容について伺いたい。



#### A 農政部長

①県立農林大学校(高崎市)に、イチゴ生産の基本的な知識と技術を修得する「いちごコース」を新設、②農業技術センター(伊勢崎市)に先端技術に適した高設栽培施設を整備し、イチゴ研究拠点として強化、③施設整備や機械導入の経費を補助する予算を拡充し、イチゴの新規栽培者や規模拡大を目指す生産者を後押しする。こうした取組により生産を拡大し、群馬県のイチゴを多くの消費者に届けられるよう努めてまいります。

2月28日(水)



**伊藤 清** 自由民主党 (安中市)



### ▶国道18号(旧道)の災害復旧と防災対策について

Q 令和5年8月の台風7号で被災した国道18号(旧道)の災害復旧の現状と開通の見通し及び防災対策について伺いたい。

#### A 県土整備部長

復旧状況としては、昨年11月に工事着手し、現在、崩落した路肩を補強する工事を実施しており、今年3月末の開通を目指し復旧工事を推進している。防災対策については、定期点検の結果から17カ所で落石対策が必要と判断し、昨年度までに3カ所の対策工事が完了した。残る箇所のうち、12カ所は工事の契約手続き中で、2カ所は保安林の許可が下り次第、順次工事に着手する予定である。



**井田 泰彦** 令明 (桐生市)



### ▶自動車サプライヤー<sup>(※1)</sup>支援の体制強化や内容の充実について

Q 自動車サプライヤー支援センターについて、さらなる充実が必要と考えるが、現状の体制や取組内容、来年度の方向性について伺いたい。

#### A 産業経済部長

県では、自動車サプライヤー支援センター(前橋市)を中心に、大きな時代の変化に積極的に挑戦する企業に対し、ワンストップで集中的に支援を展開している。令和3年度のセンター設置以降、業界最新動向の提供、デジタルを活用した設計・開発人材の育成、EV技術関連の大規模展示商談会出展等の事業を実施してきた。引き続き、さまざまな機関と連携しながら、企業の挑戦をしっかりと後押ししていきたい。



**栗野 好映** 安新会 (安中市)



### ▶誰一人取り残さない県民幸福度の向上について

Q ささまざまな立場にある県民が誰一人取り残されないことのないよう、県として取組を進めることが重要と考えるが、知事の思いと県の今後の取組について伺いたい。

#### A 知事

「誰一人取り残されない」とは、弱い立場の人々を救済するという側面とチャンスをおもに与えるという側面がある。前者の取組として、社会保障・福祉政策、医療政策のほか、こども政策、交通・デジタルデバインド<sup>(※2)</sup>対策を進める。後者の取組として、子どもたちの非認知能力の育成などの特色ある教育、外国人県民を含めた多文化共生を進める。「県民の幸福度向上」は山本県政最大のミッションであり、引き続き全身全霊で取り組んでまいります。



**宮崎 岳志** 群馬維新の会 (前橋市)



### ▶県立赤城公園活性化整備について

Q 赤城ランドステーションのシャワー等の整備方針を伺いたい。また、将来的に温浴施設の設置が望ましいと考えるが、今後の整備に向けた県の考えを伺いたい。

#### A 環境森林部長

赤城ランドステーションは、ビジターセンター敷地内に建設を予定しており、登山・ランニングなど、赤城のアクティビティの拠点にもなる場所であることから、身体を動かした後も、快適に過ごしていただくためにシャワー室も整備予定である。温浴施設については、「県立赤城公園の活性化に向けた基本構想」の中で整備を検討するとされており、さまざまな方と意見交換を重ねてまいります。



**水野 喜徳** 自由民主党 (吾妻郡)



### ▶こんにゃくの価格暴落に対する今後の群馬県の取組について

Q 昨年こんにゃくいもの価格が暴落し、生産農家数も減少する中、群馬県のこんにゃく産業の衰退が懸念される。これに対する今後の県の取組について伺いたい。

#### A 農政部長

冷凍食品やお菓子の原料となる加工用ジャガイモなど新規作物への一部転換を進め、こんにゃくいもの生産農家の経営安定につなげたい。また、こんにゃく製品の国内消費が減少する中、海外のバイヤーとの商談会や「輸出EXPO」などの見本市に出展し、輸出の促進に取り組む。さらに、こんにゃくいもの機能成分を生かした新製品開発に向けて、民間企業や大学と連携して取り組んでまいります。



**中島 豪** 自由民主党 (高崎市)



### ▶児童の発達障害に関する取組について

Q 発達障害の疑いのある児童数が増えているが、現状の課題と県の具体的な取組はどうか。

#### A 健康福祉部長

発達障害児支援に当たっては、発達の課題を早期に見出し、適切な支援につなげていくことが重要である。県では、集団での遊びを通じた相談援助を行う「マザーアンドチャイルド事業」や保育施設等に児童への適切な接し方を助言するコンサルテーション等に取り組んできた。また、令和6年度新規事業として、「ペアレントメンター事業<sup>(※3)</sup>」を実施予定であり、今後も発達障害児とその家族に対する支援体制の充実・強化に努めてまいります。



**斉藤 優** 自由民主党 (伊勢崎市)



### ▶県道境木島大間々線の冠水対策について

Q 県道境木島大間々線(境下淵名交差点付近)の冠水対策について、県の考えを伺いたい。

#### A 県土整備部長

現地調査の結果、交差点の東側が地形的に低く、特に雨水が溜まりやすいことが判明した。このため、交差点東側の冠水箇所から交差点を南下する県道境木島大間々線の約100m区間において、排水能力を向上させる対策工事を実施することとし、現在、工事の契約手続きを進めているところである。台風などの豪雨が多く発生する夏頃までの完成を目指し、速やかに工事を進めていく。



**酒井 宏明** 日本共産党 (前橋市)



### ▶市町村が実施する生活保護事務における不適切な事務に対する対応について

Q 桐生市で発覚した不適切な事務に対し、群馬県ではこれまでどのように対応してきたのか伺いたい。

#### A 健康福祉部長

群馬県では、事案が明らかとなった昨年12月から、桐生市に対して事実確認やヒアリングなどを行い、「毎日窓口に来所させるなどの過度な分割支給をしないこと」、「当月分の保護費の一部のみ支給する」といった取扱いはいはしないこと」など不適切な点を指摘し改善を求めるとともに、県内の各福祉事務所に注意喚起を行った。また、今年1月には特別監査を開始し、現在、実態把握を進めている。



**丹羽 あゆみ** 創生会 (みどり市)



### ▶女性活躍推進に係る安心して子どもを産み育てられる環境づくりについて

Q 令和5年度群馬県幸福度レポートでは「安心して子どもを産み育てられる環境が整っていると感じますか」の施策実感が前回調査よりも低下しているが、今後の取組を伺いたい。

#### A こどもまんなか推進監

今年2月に「こどもまんなか推進本部」を立ち上げ、新規施策を検討するチームを設置。チームで検討を進める新たな施策群を「こどもまんなか推進プログラム」としてまとめる。子育ての負担が女性に偏っている現状を踏まえ、「共働き・共育での推進」を検討テーマの一つとしており、女性の活躍に繋がるものと考えている。知事のリーダーシップの下、関係部局が連携し全力で取り組んでまいります。



**星野 寛** 自由民主党 (利根郡)



### ▶温泉文化のユネスコ無形文化遺産登録について

Q 群馬発の取組が全国的に広がりを見せているが、改めて知事の思いを伺いたい。



#### A 知事

国会議員の議連や知事の会、民間主導の全国推進協議会が設立され、登録に向けた機運は着実に高まっている。全国の旅館、観光関係の皆さんが立ち上がってくれたことは、群馬県発の取組が全国を巻き込む大きな動きになってきている証であり、確かな手応えを感じている。温泉県の知事として、温泉地で働く人たちに誇りと希望を持ってもらい、温泉地を盛り上げるためにも、引き続き全力で取り組んでまいります。

※1 自動車サプライヤー…自動車部品や素材を供給する部品メーカーや素材メーカーのこと  
※2 デジタルデバインド…インターネットやコンピュータ等の情報通信技術を利用できる人と利用できない人との間に生じる格差のことで、「情報格差」と訳される  
※3 ペアレントメンター事業…自らも発達障害児の子育てを経験し、かつ相談支援に関する一定のトレーニングを受けた親が専門家とは異なる視点から共感的なサポートを行う支援事業